

つながり

奈良県立ろう学校 特別支援部
2020年 10月号

難聴学級便り～支援内容や取組の紹介～



今月号では、小学校の難聴学級を担当している先生が実践されている取組等の紹介をさせていただきます。

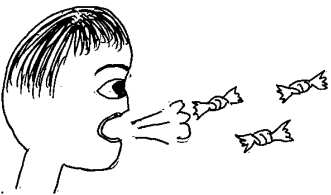
Sさんは、骨伝導型の補聴器をつけています。交流学級では、グループや席順を工夫し、多くの学習時間をクラスの友達と進めています。心の許せる友達とは、話をしたり、遊んだりしていますが、教室で本を読んでいる姿も多く見られました。学習や生活の様子を見ながら、戸惑っている時は声をかけ、少し離れて見守るようにしてきました。時々ろう学校の先生に交流学級と自立の時間での学習・休憩時間の様子を参観してもらい支援いただきました。

3年生の時の様子

【目標】

○交流学級では、先生や友達の話をしっかり聞き、与えられた課題をしようと、Sさんは一生懸命に学習しているので、自立活動の時間は、心がホッとするゆったりした時間を大事にする。
○Sさんが「話が聞き取りやすい席」に気づけるように、前の席だけでなく、廊下側や運動場側・前や後ろの席等、席替えを工夫する。

家庭での様子を保護者に教えてもらい、日記の内容や頑張っていること・夢中になっていること等を自立の時間に聞いてみました。Sさんは、好きな本の挿絵を見せたり、絵をかいたりして、いっぱい話してくれました。交流学級で見せる姿とは全く違い、毎日緊張して一生懸命に過ごしていることに改めて気づきました。それからは、自立活動の時間のSさんの話を大事にし、話を引き出すきっかけを知るために、保護者との連携を一層密にするようにしました。



Sさんとの話の後、フーフーゲームをします。紙をSさんに千切ってもらい、5cm程の「こより」を作ります。そのこよりを厚紙の上に置き、思いっきり息を吸って吹き飛ばします。目当ての線を引いて少しずつ遠くしたり、こよりを重くしたりして、難しくしていきました。すぐ近くにポトンと落ちていたこよりも、繰り返していくと少しずつ遠くまで吹き飛ばせるようになってきました。自信や意欲を待てるように、誉めることも大切にしました。

フーフーゲームの後、ろう学校から貸りている自立活動の教科書「こくご ことばのべんきょう」を使って発音練習をします。保護者とも話し合い、発音練習や長文のページを中心に、「大きく口を開ける」「しっかり息を吸い・しっかり吐く」「相手の顔を見て話す」をめあてに、繰り返し読みました。「ここまで届く声で読んでごらん。」と、少しずつ離れて聞くようにしています。読んだ後、挿絵を見ながら魚や虫の名前を聞いたり、文作りをしたりしました。想像の世界を広げ、語彙を増やしたいと考えたからです。「分かりません。もう一度言ってください。」と言えることが、Sさんの大事なめあての1つです。心を許せる友達にしか言えません。

3学期に、新たに以下の目標を立てました。

【目標】

○促音や長音・拗音の発音練習も取り入れる。
○ろう学校幼稚部で学習した「口の動きを読む」ことを思い出したようだ。「聞く」と併せて「口の動きを読む」学習を工夫する。
○ラムネを使った発音練習やウエハースを使った舌の運動等を行う。ろう学校幼稚部で学習したことを参考にして、練習を積み重ねていく。
※保護者が心配しておられる外国語活動については、自立の時間にCDを聞きながら予習しておく必要がある。

息を長く吹いていることが視覚的にも分かるように、ペットボトルに細かく切ったストローを入れた教材を作りました。ストローは少し重かったようで、思いっきり息を吸って・吐いても、入れたストローの数を少なくしても動きません。ストローのかわりに軽いキラキラモールを入れて練習しました。ストローをくわえている唇から息が漏れ、思ったように動きません。

教材を工夫することが必要だと思いました。



3学期になりSさんとの関係が深まってきたので、口はしっかり開けるけれどわざと小さな声で質問する時を持つようにしました。Sさんは、ちょっと首を傾げ、じっと私の顔を見ます。口の動きを読もうとしているようです。

小さな声だったけれど「聞こえなかったので、もう一度言ってください。」と、初めて言えました。大いに誉め、保護者にも連絡しました。「最近、Sさんの話、聞こえやすくなった。」という交流学級の友達の言葉も保護者に伝えました。本人の励みとなり、一層意欲が高まったと思います。

現在の様子

学年が上がってクラス替えがあり、よく話をしていた友達と違うクラスになり、交流学級の担任も替わり、緊張した新学期のスタートとなりました。分散登校・全校登校が始まった6月当初は、休み時間に一人で本を読んで過ごすことが多く、お母さんも心配されていました。



Sさんが3階を歩いていたある日、音楽室からピアノの音が聞こえ、そっと音楽室に入って行きました。ピアノを習っているSさん。次の日、音楽担当の先生に、「弾きにきていいですか？」と一緒に聞きに行きました。「弾いていいよ。」と言われてからは、時々音楽室に通い、そのうちに「楽譜を持って来ていいですか？」と、自分で聞いたようです。

楽譜を持っていそいそと音楽室に通うSさん。ピアノを弾きに来る高学年に「上手やなあ。」と褒められ、ますます意欲が高まったようです。新しい友達と一緒に外で遊ぶ姿も見られ、Sさんの世界が広がってきたように思いました。

最初は自ら行動を起こす勇気をなかなか持てなかったSさんが、自立活動での取組を通して、少しずつ自己肯定感を高めていきながら、自分の話し方や行動に自信をつけていく様子が伝わってきます。本人との会話を丁寧に積み重ね、何でも話せるような信頼関係を築き、安心して思いを話せる時間を確保していくこと、自信や意欲をもてるように褒めて励ましていくことはとても大事なことです。

これからも、Sさんと周囲の関わりがさらに広がって、より成長していく姿が見られるのが楽しみです。

(文責 椿野)

お知らせ

今年度は、コロナウィルス感染症による影響により、聴覚障害に関わる主要な研究会等が実施できず、なかなか情報を得にくい状況だったのではないかと思います。本校として何か皆様のお役に立てることがあれば…と考え、本来5月に行われる予定だった担当者研究会の内容を中心にまとめた冊子「聴覚障害の理解と支援」を作成いたしました。初めて担当される先生方向きの内容となっております。8月の担当者研に参加されていない学校に配布させていただきます。

子どもたちの実態は様々であり、必ずしも書かれていることが全て当てはまるとは限らないかも知れませんが、活用していただければ嬉しく思います。もしご質問等がありましたら、下記までご連絡ください。

聴覚障害の 理解と支援



奈良県立ろう学校
聴能部
特別支援部

「きこえにくい子に合った支援方法を知りたい」「子どものきこえの状況を把握したい」「子どもは、どんな時に困難さを感じている？」など、お聞きになりたいことや相談したいことがありましたら、いつでもご連絡ください。一緒に子どもたちへの支援を考えていきましょう。

奈良県立ろう学校 吉田(小学生以下)・田中(小学生以上) TEL 0743-56-2921 FAX 0743-56-8833